



まえばし学校フェスタ 2012 (若宮小学校合唱団)

第5章 豊かな心を育むまちづくり (教育・文化)

- 第1節 豊かな人間性を培う社会教育を推進します
- 第2節 共に学び合い考える力を育む学校教育を推進します
- 第3節 元気づくりのスポーツを振興します
- 第4節 個性と創造性あふれる地域文化を振興します



児童文化センター

第1節 豊かな人間性を培う社会教育を推進します



公民館における「家庭教育学級」



図書館本館

平成29年度に目指す姿

- ◎市民が社会教育活動で学んだ成果を活かし、地域社会とのつながりを深めています。
- ◎本に親しむことにより、市民が自ら考え、学び、心豊かに生活しています。
- ◎青少年が自らの役割と責任を自覚し、思いやりの心を持って生き生きと成長しています。

現状と課題

- 価値観やライフスタイルの多様化を背景に、生涯学習に取り組む人々が増えています。その一方で、生涯学習を単に個人の学びにとどめず、複雑化する地域課題を解決する手段として活用しようとする気運が高まっており、学んだ成果を地域に還元できる仕組みが求められています。
- 図書館は、市民の学びの場として、また、都市のさまざまな情報を記憶する媒体として大きな役割を担ってきました。今後は、ICTを活用した利便性の向上を図るとともに、レファレンス機能（図書館員が図書館の資料と機能を活用して、必要とする資料・情報を提供するサービスのこと）を強化し、蓄積された情報を各種の課題解決に応用することが求められています。
- 社会全体のつながりが希薄化する中、青少年が地域において多様な人間関係を通じて社会性を養う機会が減少しています。子ども同士の交流はもとより、さまざまな世代との「やりとり」や共同活動、体験的な活動などを通じ、社会性や人間性を育むための環境づくりを進める必要があります。

この政策に対する市民の実感

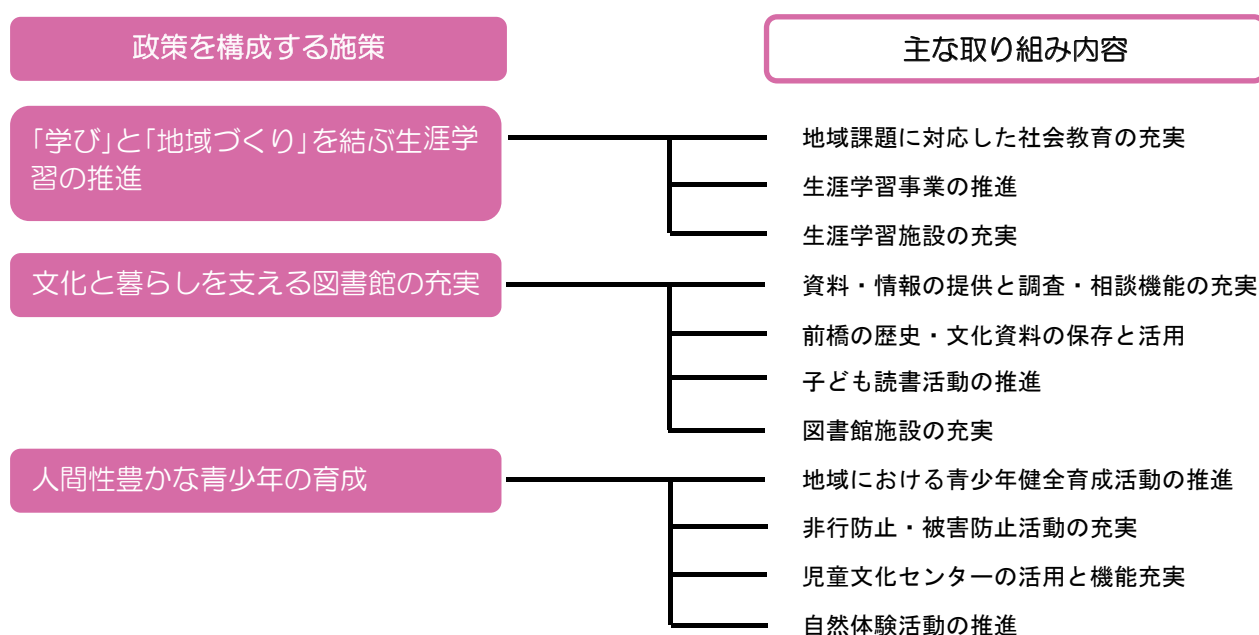
社会の問題や興味あることを学べる場や機会が、身近な場所で得られると感じる市民の割合



政策の方針（基本的方向）

- 市民の学習ニーズや地域課題に対応するため、公民館機能の充実や地域の担い手を育成し、学びを身につけた人を地域に活かす仕組みづくりに取り組みます。
- 市民が自ら考え、学び、心豊かに暮らせるよう、また、子どもたちが楽しく読書に親しめるよう、図書館の充実を図ります。
- 人間性豊かな青少年を育成するため、家庭、地域、学校の連携を促し、健全な環境づくりを進めます。

施策の体系



平成29年度の目標（成果指標）

指標名	現状値	目標値(H29)	指標の説明
公民館自主学習グループ数	821 団体 (平成 24 年度)	900 団体	公民館を利用している自主的な学習グループ数から、学習活動の充実を測る指標です。
図書資料の利用冊数（視聴覚資料含む）	2,186,931 冊 (平成 24 年度)	2,644,000 冊	図書資料の利用冊数から、図書館サービスの利用状況を測る指標です。
のびゆくこどものつどい*1（市内24会場）の総参加者数	34,268 人 (平成 24 年度)	35,000 人	前橋市青少年健全育成計画「いきいき前橋っ子はぐくみプラン」の具体的実践として、地域における世代間交流活動推進の様子を測る指標です。

用語 *1 のびゆくこどものつどい：地域に住む大人と子どもが協働して主体的にイベント内容等を企画し、世代間交流に取り組む各地のイベントのこと。

第2節 共に学び合い考える力を育む学校教育を推進します



学級活動（特別活動）の授業風景（桃川小）



市立前橋高校けやき祭オープニング

平成29年度に目指す姿

- ◎充実した学校経営、安全な学校施設のもと、子どもたちが元気に生き生きと学んでいます。
- ◎子どもたちが確かな学力や豊かな人間性、健康でたくましく生きる力を身に付けています。
- ◎高等教育機関の教育研究成果が、地域文化の振興や地域産業に活かされています。

現状と課題

- 変化の激しい現代社会において、これからの学校教育は、「確かな学力」や「豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康や体力」の調和のとれた育成により、「生きる力」を育む教育が求められています。また、災害や事故、放射能問題など、子どもを取り巻く脅威に対し、学校は、安心して通い、学べる場であることが求められます。
- 子どもたちの豊かな個性や柔軟な思考力、的確な判断力を養うため、個に応じた教育・指導体制の充実が求められています。また、ライフスタイルや価値観が多様化する中、体験学習や地域学習などの教育ニーズが高まっており、今後、学校（幼稚園）と地域社会、関係機関との連携を深め、開かれた学校づくりを一層進める必要があります。
- 高校教育は、社会生活を送るうえで必要とされる教養や規範、節度などを学ぶ大切な過程であり、生徒が将来の進路や夢の実現に向けて、基礎的な力や人間力を培う学習の場として重要な役割を担っています。
- 本市は、前橋工科大学をはじめとする高等教育機関が充実しています。今後は、各機関が市民や地域、企業等との交流を深め、強みを活かして地域社会に貢献することが求められています。

この政策に対する市民の実感

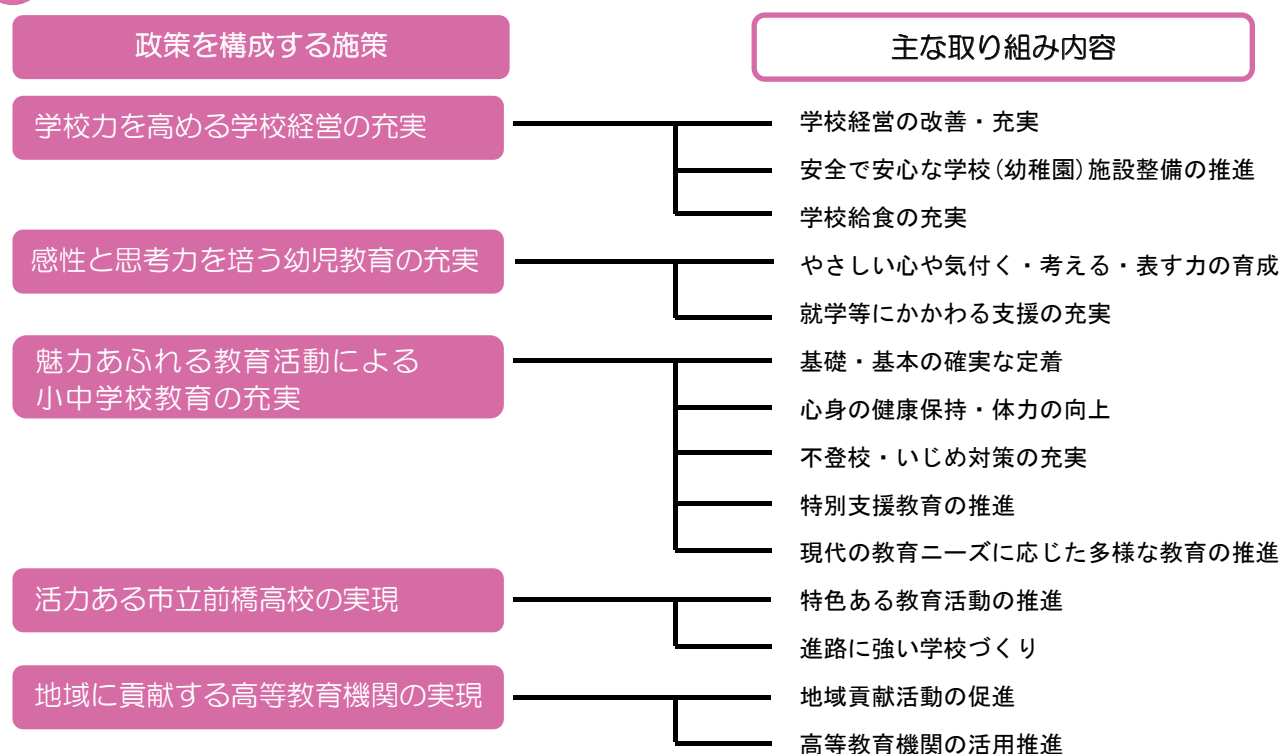
子どもたちが心身ともに健全に成長できるよう、
学校教育が整っていると感じる市民の割合



政策の方針（基本的方向）

- 子どもたちが元気に生き生きと学校（幼稚園）生活を送れるよう、環境や施設の整備を進めるとともに、学校経営の基盤となる各種指導体制の充実を図ります。
- 子どもたちが将来に対する夢や希望を実現できるよう、知・徳・体（知力・道徳力・体力）のバランスの取れた魅力あふれる教育活動を推進します。
- 地域課題の解決や産業の活性化につながるよう、高等教育機関の知や専門性を活かした地域貢献や産学の連携を支援します。

施策の体系



平成29年度の目標（成果指標）

指標名	現状値	目標値(H29)	指標の説明
学校課題の改善に関する保護者等アンケート （4段階評価で上位1位の割合）	61.0% （平成24年度）	75.0%	保護者等のアンケート結果から、学校課題の改善が進んでいることを測る指標です。
幼稚園における子どもの成長に関する保護者のアンケート結果 （4段階評価で上位1位の割合）	61.6% （平成24年度）	70.0%	保護者のアンケート結果から、子どもの成長（周囲との関係構築や自ら考え工夫するなど）を測る指標です。
（小中学校の）授業内容の理解に関する児童生徒アンケート （4段階評価で上位2位以上の割合）	88.0% （平成24年度）	90.0%	児童生徒のアンケート結果から、授業内容の理解が進んでいるかを測る指標です。
（市立前橋高校の）生徒の部活動入部率	76.0% （平成24年度）	80.0%	部活動入部率から、勉強と部活動の文武両道による学校生活が送れているかを測る指標です。
外部研究資金（国や企業等からの拠出による）の獲得状況	19件 （平成22年度）	25件	前橋工科大学の外部研究資金の獲得状況から、大学研究の充実度を測る指標です。

第3節 元気づくりのスポーツを振興します



前橋市民軽スポーツフェスティバル



ザスパクサツ群馬



前橋シティマラソン

平成29年度に目指す姿

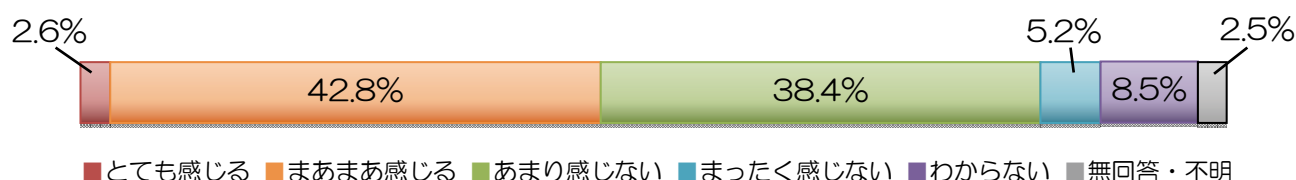
- ◎市民が、生涯を通じて身近な環境で気軽にスポーツに親しみ、生きがいを感じているとともに、健康な心と体をつくっています。
- ◎市内での全国大会開催やプロスポーツの活躍により、多くの市民がスポーツに興味を持つとともに、本市のスポーツ文化が育まれています。

現状と課題

- 高齢化社会・ストレス社会において、心身ともに健全に過ごすためには、スポーツは必要不可欠です。子どもからお年寄りまでの誰もが、個人の体力や目的に応じて、楽しみながらスポーツに触れられる機会と環境の充実が必要です。
- 都市化の進展や生活の利便化などにより、日常生活において身体を動かす機会が減少しています。そこで、運動不足を解消し健康的な生活を営むために、スポーツに親しむ習慣づけに取り組む必要があります。
- 全国規模の大会やプロスポーツの試合は集客効果が高いことから、経済活性化の手段として捉える視点も重要です。

この政策に対する市民の実感

スポーツに触れ、楽しめる機会や環境が整っていると感じる市民の割合



政策の方針（基本的方向）

- スポーツ教室や軽スポーツフェスティバルの開催などにより、市民がいつでも、どこでも、気軽に生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりを推進し、スポーツを通じた生きがいづくりや健康づくりを支援します。
- 全国大会の開催誘致や地域プロスポーツへの支援により、まちづくりの視点からスポーツの活用を図るとともに、本市のスポーツ文化の醸成を図ります。
- 前橋シティマラソンやまえばし赤城山ヒルクライム大会などの際には、市外や県外から多くの方が前橋を訪れます。そこで、スポーツイベントの開催によるスポーツ振興と観光振興をタイアップした施策を検討していきます。

施策の体系

政策を構成する施策

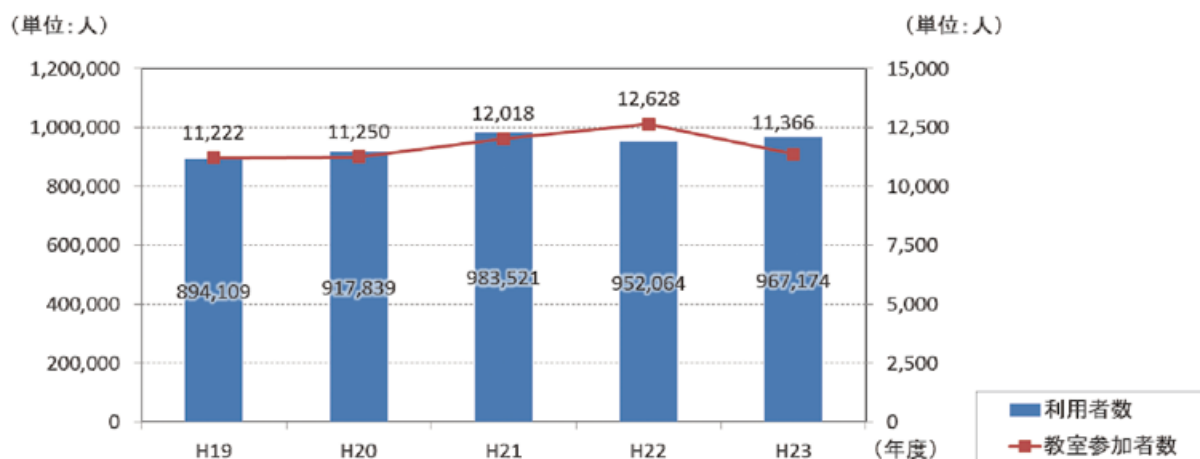
魅力あるスポーツ環境の充実

地域に根ざしたスポーツ文化の創造

主な取り組み内容

- 生涯スポーツの普及・振興
- 指導者・団体・ボランティアの育成
- スポーツ施設の整備
- スポーツ大会開催の支援
- 地域貢献プロスポーツの支援

● スポーツ施設利用者数（市民体育館ほか18施設）及び教室参加者数



平成29年度の目標（成果指標）

指標名	現状値	目標値(H29)	指標の説明
スポーツ施設利用者の満足度 （4段階評価で上位2位以上の割合）	84% （平成24年度）	90%	スポーツ施設利用者の満足度から、スポーツ環境の充実を測る指標です。
全国規模のスポーツ大会開催数	16回 （平成24年度）	23回	全国規模大会の開催数から、スポーツ文化の育成を測る指標です。

第4節 個性と創造性あふれる地域文化を振興します



子どもとアーティストによる作品制作ワークショップ 前二子古墳から出土した土器のレプリカ作成風景

平成29年度に目指す姿

- ◎市民が芸術文化にふれる機会が増え、
芸術文化活動に積極的に取り組んでいます。
- ◎市民が地域に根ざした文化に親しみ、
郷土に対する愛着や誇りを育んでいます。
- ◎外国文化との交流を通じ、
国際感覚豊かな市民が増えています。

現状と課題

- 平成25年秋、「アーツ前橋」がオープンします。この施設は、多様で質の高い芸術文化を推進し、次世代に向けた前橋文化の核として、情報発信や市民交流の場となるよう活動を展開していきます。
- 市民のライフスタイルや価値観が多様化する中で、芸術文化に対するニーズも多様化しています。このため、質の高い芸術文化の鑑賞機会の提供に努めるとともに、市民の主体的な芸術文化活動のより一層の促進を図る必要があります。
- 本市には、長い歴史に育まれた数多くの文化財や伝統文化が残されています。こうした先人たちの足跡を確かに記憶し、ふるさとを愛する心を育てるためには、将来に向けて大切に保存・継承するとともに、歴史学習・観光資源として積極的に活用する視点が必要です。
- 国際化が進む中、日本人と外国人が共存、協働して地域を支えあう「多文化共生社会*1」の実現が求められています。

この政策に対する市民の実感

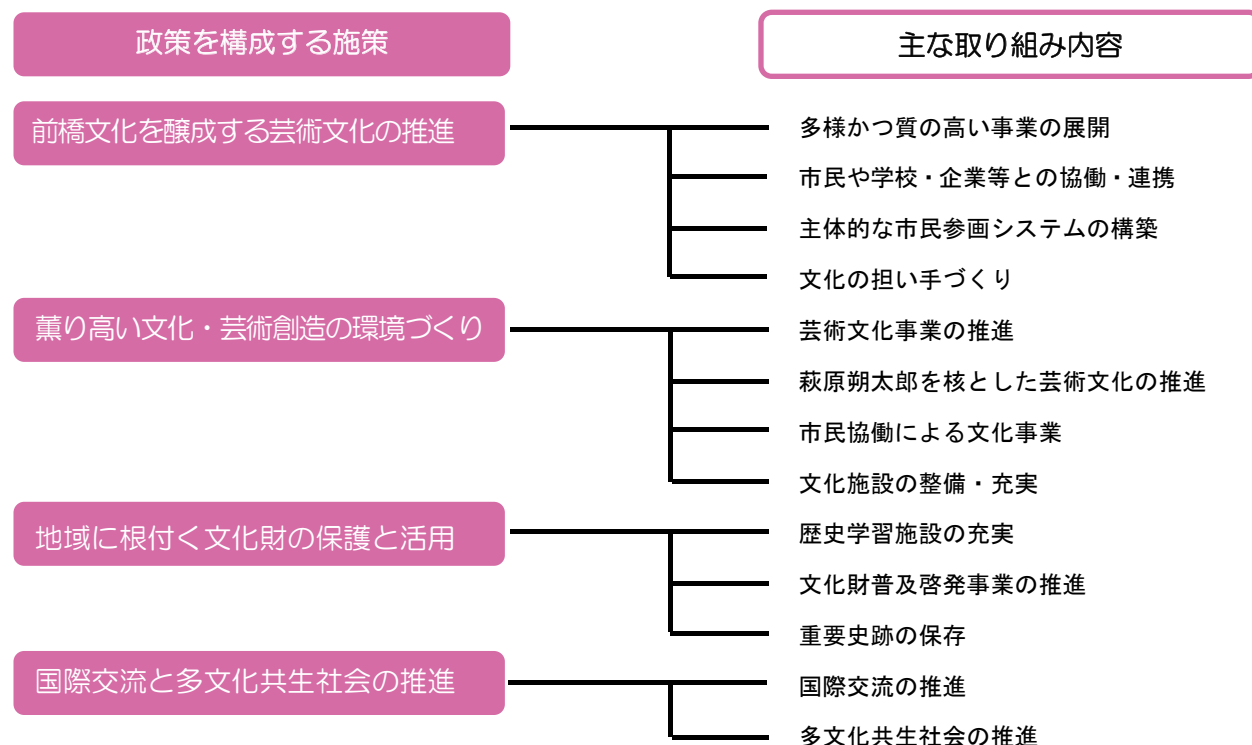
地域の伝統や歴史を学び、優れた芸術文化に触れられる環境が整っていると感じる市民の割合



政策の方針（基本的方向）

- 「アーツ前橋」を拠点とした創造的なアート活動に、さまざまな形で市民や地域が積極的に参加することで、新たな前橋文化を育みます。
- 前橋独自の文化発信と振興を進め、市民主体の芸術文化活動を促進します。
- 歴史的資産や伝統文化を継承するとともに、市民共有の財産として積極的に活用します。
- 多文化共生の環境づくりと、市民主体の国際交流を推進します。

施策の体系



平成29年度の目標（成果指標）

指標名	現状値	目標値(H29)	指標の説明
アーツ前橋来館者数	—	100,000 人	アーツ前橋への来館者数から、芸術文化施設への関心と充実度を測る指標です。
芸術文化関連イベント参加者数	65,000 人 (平成 23 年度)	76,700 人	芸術文化イベントの参加者数から、市民ニーズを反映させた芸術文化事業の充実度を測る指標です。
文化財関係施設（資料館等）来館者数	40,036 人 (平成 24 年度)	45,000 人	市民が地域の歴史や文化財に寄せる関心度を測る指標です。
国際交流協会のボランティア登録者数	461 人 (平成 24 年度)	550 人	国際交流協会に登録しているボランティア数から、国際交流の機会の充実度を測る指標です。

用語 * 1 多文化共生社会：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。